

## びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部スポーツ学科設置届出書

2014年 9月 25日

文 部 科 学 大 臣 殿

届出者の職名及び氏名

学校法人大阪成蹊学園 理事長 石井茂



このたび、びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部スポーツ学科を設置することについて、学校教育法第4条第2項及び学校教育法施行令第23条の2第1項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

## 目 次

ア	設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
	1. 学則変更（スポーツ学科の設置）の内容	
	2. 学則変更（スポーツ学科の設置）の必要性	
イ	学部、学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
	1. 学部、学科の沿革と教育の理念	
	2. 本学の教育方針	
ウ	学部、学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
エ	教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
	1. 教育課程編成の考え方	
	2. 教育課程の特色	
	3. 教育課程の編成（カリキュラム）	
オ	教員組織の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8
	1. 教員組織の考え方	
	2. 教員組織の特色	
	3. 教員の主な研究分野別・年齢構成別人数	
カ	教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 10
	1. 教育方法	
	2. 履修指導方法	
	3. 卒業要件と学位の授与	
キ	施設、設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 11
	1. 校地、運動場の整備計画	
	2. 校舎等設備の整備計画	
	3. 図書等の資料及び図書館の整備計画	
ク	入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 12
	1. アドミッションポリシー	
	2. 選抜方法	
	3. 入試種別と選考方法	
ケ	資格取得を目的とする場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 14

1. 本学で取得できる資格
2. 本学で受験資格を得られる資格

コ	実習の具体的計画	P 14
サ	企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合はその具体的計画	P 14
ツ	管理運営	P 15
	1. 学長の役割	
	2. 教授会及び各委員会の役割	
テ	自己点検・評価	P 16
ト	情報の公表	P 16
ナ	授業内容方法の改善を図るための組織的な取組	P 18
ニ	社会的・職業的自立に関する指導等及び取組	P 18

資料  
履修モデル

## ア 設置の趣旨及び必要性

### 1. 学則変更（スポーツ学科の設置）の内容

本学は、スポーツを取り巻く社会情勢の中にあつて、生涯スポーツの実践と競技スポーツのそれぞれの独自性を重視しつつ、その両面にまたがる新しい理論とシステムを開発することを目的として、「生涯スポーツ学科」と「競技スポーツ学科」の2学科構成で開設された。

今般、開設以来10年余りの時代の変化と社会的要求に応えるべく、スポーツ学部の2学科制による学生募集を停止し、1学科（スポーツ学科・7コース）を設置するために学則変更を行うものである。

### 2. 学則変更（スポーツ学科の設置）の必要性

(1) スポーツ学部を「生涯スポーツ学科」と「競技スポーツ学科」の2つに分類することは、今日では理論的にも明確でなく、その妥当性も高いものとは言いがたいと考えられ、本学は「スポーツ学科」の設置を申請するものである。

すなわち、誰もが、いつでも、どこでも、生涯を通じてスポーツを行うことができる生涯スポーツは、人々がスポーツの喜びや感動を享受し、健康の維持増進に寄与し、スポーツの普及振興を図る上で欠くことのできない分野である。一方、競技スポーツは、スポーツの競技性(勝敗)という点でスポーツを構成する主要な要素であり、無視することはできない。

両者は、ライフステージの過程でスポーツを行う人の置かれた状況(年齢、体力、技能レベル、目的や価値観)、言い換えれば、その人の、その時々重点の置き方に対する姿勢や考え方の違いによるもので、スポーツの指導者を養成する大学教育として、両者を二者択一的ではなく、総合的・一体化したものとして捉える必要がある。

(2) 現行の「生涯スポーツ学科」と「競技スポーツ学科」の2学科制の中で、それぞれの学科により専門的なコースを設置するには、どうしても矛盾があったり、説得力に欠ける点が指摘される。学生のコース選択は、特に重要で、個々の学生のコース内容に対応する興味関心、担当教員や将来の進路(就職)等に基づいて行われる。

例えば、「スポーツマネジメントコース」は、「競技スポーツ学科」に属しているが、マネジメントは競技スポーツに限定されるものでなく、市民スポーツのイベントなどスポーツプログラムを展開する上で、すべてのスポーツに関係のある領域である。また、「学校スポーツコース」は「生涯スポーツ学科」に位置づけられているが、このコースを選んだ学生の中には、将来体育教師になって、サッカー部や野球部などの部活動の指導者(監督、コーチ)となるために「競技スポーツ学科」のコーチングコースやスポーツ情報戦略コースを重視している者も多いが、2学科制のための履修が制限されている。

(3) 現行の教育課程では、まず、2学科の中から1学科を選択し、次に学科に配置されたコースを選択するという制度になっている。学生のアンケートによれば、学科よりもコースの内容や担当教員を重視しており、学科はコースを選択する際に必ずしも重視していないことが明らかになっている。2学科の存在は、その意義が高いとは言えず、コース選択の

自由を制限し、弊害にさえなっている感がある。従って、2学科を廃止し、1学科を設置することにより、一層、包括的で充実した専門性の高い教育課程を実現することができる。

加えて、教育課程の変更により、コース専門科目の選択の自由度を確保することとした。具体的には、自コースのコース専門科目（コース専門内）から20単位以上（必修科目と選択科目を含む）を選択することに加えて、他コースの専門科目（コース専門外）から10単位以上（他コース科目）を選択することができるようにした。これにより、より広範囲に及ぶ専門性を学修することが可能になり、1学科にすることによる利便を最大限に発揮することが可能となる。

上記のことから、スポーツ学科は、現在の生涯スポーツ学科及び競技スポーツ学科の入学定員合計280名を入学定員として平成27（2015）年度の入学者を募集し、同時に生涯スポーツ学科及び競技スポーツ学科は募集を停止する。

(4) コースについては、学生の興味関心、卒業後の進路、そして、開設以来培ってきた教員人事（配置）を総合的に考えた時、現行のコースを変更する必要性が特にあるとは認められず、現行の7コースを維持・継続する。その7コースとそれぞれのコースがどのような人材を育成するのかについては、次に示す通りである。

- ①野外スポーツコース：自然の中での生きた学びをとおして培った感性や、人・環境への理解に基づいて、あらゆる年代・立場の人に、自然の持つ特性を活かしたスポーツ教育活動を企画・運営し、指導できる資質及び能力を備えた人材を育成する。
- ②地域スポーツコース：地域のスポーツにかかわり、その運営・管理ができる立場の人材をはじめ、子どもから高齢者、障がい者など、あらゆる人々を対象にした健康増進・余暇活動の充実に貢献できる人材を育成する。
- ③学校スポーツコース：スポーツ・健康教育に関する深い理解と高い実践力を備え、学校教育現場における保健体育授業やスポーツ活動の充実に寄与する人材を育成する。
- ④トレーニング・健康コース：競技力の向上や健康づくりに活用するための、スポーツ医学、トレーニング科学、スポーツ栄養学といった学問や研究に関心が高く、それらの学びを通じて実践的指導力を身に付け、社会に貢献できる人材を育成する。
- ⑤コーチングコース：より高度で専門的なコーチングに関する知識および技能を修得し、様々なスポーツ現場のニーズに応え得る人材、ひいてはスポーツの現場だけでなく、一般社会でも通用する優れたリーダー・指導者（支える人）を育成する。
- ⑥スポーツビジネスコース：スポーツをサービスとして捉え、するスポーツおよび見るスポーツの両方の分野においてスポーツマネジメントに関する知識（マーケティング、施設・イベントマネジメント、メディア、広報PR）および技能を修得し、スポーツビジネスの発展に貢献する人材を育成する。
- ⑦スポーツ情報戦略コース：科学的な分析力を有し、分析結果を有益な情報としてスポーツフィールドに還元するための能力を養い、スポーツ指導場面を確実にサポートできる人材（アナリスト）を育成する。

## イ 学部、学科等の特色

### 1. 学部、学科の沿革と教育の理念

本学は、大阪成蹊学園の建学の精神「桃李言わざるが、下自ずから蹊を成す」（大意は、徳があり思いやりのある人の周りには自然と人が集まってくるものであり、そうした人間としての徳を磨こう、ということである。）の下、我が国初めての「スポーツ」という名称を冠した4年制大学として2003年（平成15年）4月に開学した。「スポーツ学部」単一の単科大学であり、現在、「生涯スポーツ学科」と「競技スポーツ学科」2学科で構成されている。「生涯スポーツ学科」には、野外スポーツコース、地域スポーツコース、学校スポーツコース、「競技スポーツ学科」には、トレーニング・健康コース、コーチングコース、スポーツビジネスコース、スポーツ情報戦略コースの7コースで構成されている。現在は、1学部2学科の入学定員は280名で（収容定員1,120名）、教育研究が行われている。

スポーツに対するニーズは、「する」「みる」「ささえる」「知る」など多様化し、幼児から高齢者まですべての年齢層の人々がスポーツを「する」「みる」ことを求めている。本学の教育理念は、それらの要求を直接的あるいは間接的に開発し、支援することにある。

### 2. 本学の教育方針

本学においては、①時代の進展に即応し、社会に根ざし、社会に開かれているとともに、新しいスポーツ学研究成果を踏まえた教育課程を編成し、実施すること、②「多様な授業形態」「少人数教育の確保」「実習重視の教育方法」「野外スポーツの重視」「自然環境への配慮」等を考慮し、個々の学生に応じた指導を徹底すること。③学ぶことの楽しさを知らしめ、追求する喜びを体得させ、本学で学んだことに誇りと自信を持たせるように教育方法の改善に努めること、の三つを教育方針軸としている。そして新しいスポーツ文化の創造のための教育研究に努め、日々のスポーツや健康に関するニーズに応えるべく、スポーツを開発し、支援することのできる豊かな教養と高度な専門性を有する人材を育成することを目指している。この教育方針は、2学科を廃止し、1学科を設置しても引き続き継承する。

## ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

学部名はスポーツ学部を継承し、学科名はスポーツ学科とする。学位は学士（スポーツ学）とする。

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1. 教育課程編成の考え方

今回のスポーツ学部を設置することにおいて、1年次から4年次にかけて、段階的に、スポーツ学の専門性を高めた学習内容を教育課程として編成するという基本的な考え方に相違はない。すなわち、従前の2学科（生涯スポーツ学科および競技スポーツ学科）からなる学部構成を廃止し、1学科（スポーツ学科）を設置することにより、より一層、包括的で充実した専門性の高い教育課程を実現することができると考えている。

具体的には、1年次には、「一般教養科目」や「外国語科目」、「情報処理科目」などの教養科

目の学修を推奨しつつ、「講義・実習科目」、「実技科目」を含む「専門科目」を履修し、スポーツ学の専門分野に広く触れる。そして、2年次には、7つの専門コース（野外スポーツ、地域スポーツ、学校スポーツ、スポーツビジネス、トレーニング・健康、コーチング、スポーツ情報戦略）から1コースを選択し、専門コース学修の導入として各コースの「基礎演習」を学修し、「コース専門科目」の学修に向けて準備段階に入る。ここで注目すべきは、1・2年次を中心に学修する「専門科目」において、多様な科目の中からフレキシブルに選択することができる点である。これにより、専門コースでの学修を充実させるための段階的な準備が可能となる。

そして、3年次には、専門コースの中からゼミナールを選択し、「コース専門科目」を中心に学修を進めていくことになるが、今回の新学科を設置した結果、各学生が所属する「専門コース内のコース専門科目」に加えて、「他コースのコース専門科目」を積極的に履修することができるようになる。これには、専門コースでの学修を深めつつ、学生の選択の自由度を高めるような配慮が含まれている。そして、4年次では大学での学修の集大成となる「卒業研究」に取り組む一方、キャリア獲得の実現にむけて取り組むことになる。

また、これらの教育課程は、大学院への連結を促す内容ともなっている。

## 2. 教育課程の特色

### (1) 導入教育の充実（担任制度／3大実習）

1年次に、1クラス20名に対して専任教員1名を配当した担任制度を導入している。また、入学直後には「フレッシュマンキャンプ」を、1年生後期には「雪上実習」を、それぞれ開講し、学生間および教師とのコミュニケーションを促している。そして、2年次には、「水辺実習」を開講し、環境へ配慮をしつつ、スムーズな学修を進めるための礎を築いている。

### (2) 初年次教育の充実（教養演習）

教養演習A（非言語能力の向上）、教養演習B（言語能力の向上）、教養演習C（思考力の向上）を開講し、入学直後の学生が、大学生活の入り口でつまづくことなくスポーツ学の学修を進めることができるように配慮している。

### (3) 特色ある7つの専門コース

2年次から7つの専門コースを選択し、段階的にスポーツ学の専門的学修を行う。その7つのコースとは、①野外スポーツコース、②地域スポーツコース、③学校スポーツコース、④スポーツビジネスコース、⑤トレーニング・健康コース、⑥コーチングコース、⑦スポーツ情報戦略コース、である。

### (4) 広がる専門性

2年次からの専門教育は、上記の専門コースにおける「コース専門科目」を中心に学修することになるが、今回の2学科の廃止と1学科の設置によって、自コースのみならず他コースの専門性にも触れることが可能となった。

### (5) 現場での実践教育

インターンシップ実習は、学生のキャリア形成に向けて大きく寄与することが期待できる。開学以来、必修科目として全学生が履修することには大きな意義があるといえる。ま

た、「スポーツボランティア実習」では、スポーツ現場での直接的な問題解決能力を養うのに有意義な機会を提供することになる。

(6) ティーチング・アシスタントおよびスチューデント・アシスタントの活用

概ね 150 名を超える講義・実習科目、実技科目などでは 6 人の助手のほか大学院生のティーチング・アシスタントや学部上級生のスチューデント・アシスタントが指導補助として適宜配置されている。

(7) 各種資格取得への対応

これまでに、教職課程や日本体育協会認定アスレティックトレーナー、その他の各種資格の取得へ向けての授業科目を開講してきたが、昨今のグローバル化の流れを鑑み、この度の学科再編に伴って、外国語（英語）、特に、キャリア英語（TOEIC）を導入し、学生のキャリア獲得に向けてのサポートを強化した。

(8) 大学院との連結

これらの教育課程は、大学院スポーツ学研究科と密接に連結しており、大学院では、学部で学修した内容を、より一層発展的に学修する内容となっている。

3. 教育課程の編成（カリキュラム）

2 学科を廃止し、1 学科を設置することに伴って、科目カテゴリーを改編した。それは、「学部共通」および「学科共通」の区分を無くし、教養科目（一般教養科目、外国語科目、情報処理科目を含む）、専門科目（講義・実習科目、実技科目を含む）、コース専門科目、卒業研究、といったカテゴリーへと統合した。特に、教養科目は 36 単位以上、専門科目は 54 単位以上に、コース専門科目 30 単位以上、および卒業研究は 4 単位とし、卒業要件は 124 単位とした。その他、各種キャリア形成を鑑み、キャリア関連科目を設定した。

(1) 教養科目

一般教養科目（「こころとからだ」「生活と社会」「自然と文化」「教育と情報」「初年時教育」）

外国語科目（英語（I～IV）、ドイツ語、韓国語、中国語、スペイン語）

情報処理科目

(2) 専門科目

講義・実習科目（必修：17 科目、選択：23 科目）

実技科目（A 群～D 群：17 科目）

(3) コース専門科目および卒業研究

必修科目：基礎演習／演習／専門実習 I および II

選択科目および他コース科目（各コース 6～11 科目）

卒業研究

(4) キャリア関連科目

免許・各種資格の取得に対応した 36 科目

\*カリキュラムの学年配当は概ね下記の通りである。

対応学年		1		2		3		4	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	一般教養科目								
	外国語								
	情報処理科目								
専門科目	講義・実習科目								
	実技科目								
コース専門科目									
卒業研究									
キャリア関連科目									

## オ 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織の考え方

大学設置基準第 13 条に則った、入学定員（280 人）に応じた必要教員数（37 人）を確保、配置し、教育課程を適切に運営する。また、学部専門科目（学部共通科目、コース専門科目）を主に専任教員が担当し、スポーツ学の基礎となり、かつ幅広い教養を提供する教養科目及び教職関連科目を含むキャリアデザイン科目など専任教員では賄えない科目については、非常勤講師を充当する。

### (2) 教員組織の特色

①教員組織は、学部共通専門科目及びコース専門科目を担当する 7 コースと学部共通教養科目を担当する共通・教職群の計 8 つの教員組織から成っている。

教員の採用、昇格にあつては、「教員採用等規定」が定められていて、「教員資格審査等委員会」が構成され、必要な書類、業績等について審査し、必要に応じて面接や模擬授業を実施し、適任者を学長に報告し、教授会の議を経て、理事会に報告し、決定する仕組みになっている。採用にあつては、研究者として学位（博士）の取得状況とスポーツ学の中核となる実践教育を特に重視し、学生に対して質の高い教員を配置することを目指している。

②本学の定年に関しては、大阪成蹊学園定年規程第 1 条において「大学並びに短期大学の教授、准教授、講師及び助教は、満 65 歳とする。」と定められており、同条において「副学長、学部長、学長補佐、学科長の役職にある教員のうち、副学長、学部長にあつては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、2 年を超えない範囲内で、また、学長補佐、学科長にあつては、その教員の定年退職日の翌日から起算して、1 年を超えない範囲内で期限を定め、それぞれの当該役職に従事するために定年期限を延長することができる。但しいずれの場合も 70 歳を超えることはできない。」と定年延長について定められている。

また、定年退職者の再雇用については「定年退職者再雇用に関する規程」において定められている。

なお、学長については、「びわこ成蹊スポーツ大学学長選考規程」第3条第2項において「学長が任期中に定年年齢に達した場合には、任期満了まではなおその職にあるものとする。」定められている。

③教員の教育研究活動を支援するために教員一人あたり60万円（研究費40万円、研究旅費20万円）を個人研究費として配分することに加えて、共同研究費や海外研修費、特別研究費を別途支給する制度を設けている。

さらに、図書・学術委員会を中心に「アカデミックアワー」と題して、教員による月例の学術研究発表会が開催されており、教員相互の研究動向を理解し、研究の活性化と質の向上に貢献している。

④教員評価については、FD委員会が中心になって従来形式の教員業績報告書に加え、前年度の目標達成度と次年度の目標設定を追加し、さらにエフォートを記入することで、業務達成度と努力度の重みづけを行うなどの検討を加えた結果、全学で一貫した教員評価基準が設定され、2014年度に試験的に導入し、2015年度から本格的に実施することが教授会及び理事会で決定した。将来的には、昇格人事やボーナス等のインセンティブに活用される予定である。

### (3) 教員の主な研究分野別・年齢構成別人数

専任教員はスポーツ学部スポーツ学科に所属し、コース別、共通教職科目群のいずれかに配置される。教員の研究分野別・年齢構成は以下の表のとおりで、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないように配慮し、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。

教員の主な研究分野別・年齢構成別人数 (2014年5月1日現在、単位：人)

コース・群名	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
野外スポーツ	1	1	1	2	5
地域スポーツ	1	1	1	3	6
学校スポーツ	2		1	3	6
トレーニング・健康	1	2	3		6
コーチング	3	1	3		7
スポーツビジネス	2	1		1	4
スポーツ情報戦略	1	3			4
共通・教職科目群	1	1	1	1	4
合計	12	10	10	10	42

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

教育方法、履修指導方法及び卒業要件については、次の通り万全な体制を整えている。

### 1. 教育方法

今回の新学科を設置することにより、科目群は「一般教養科目」「外国語科目」「情報処理科目」「専門科目」「コース専門科目」「キャリア関連科目」の6群へと改編され、学生の選択の自由度に配慮したものとなっている。

現行の教育課程で学修する平成26年度までに入学した学生と、新しい学科編成で学修する平成27年度以降に入学した学生が、いずれも不利益を被らないように充分配慮したカリキュラムを構築した。

また、今回の新学科の設置により、「専門科目」と「コース専門科目」における選択の自由度に配慮した。特に、7つの専門コース（学校スポーツコース、地域スポーツコース、野外スポーツコース、トレーニング・健康コース、コーチングコース、スポーツビジネスコース、スポーツ情報戦略コース）の中から2年次に1つを選び、そのコースの「コース専門科目」を10単位以上履修することのみならず、「他コースのコース専門科目」を10単位以上選択できることから、専門的な学修の幅を拡げることができる。

### 2. 履修指導方法

入学後、大学での学修をつまづくことなくスムーズに進められるように、担任制度を利用して、個々の学生に対して丁寧な履修指導をする。そして、「スポーツ学入門 I（総論）」や「スポーツ学入門 II（各論）」を通じて、大学における学修の全体像を把握し、4年間の見通しを持てるように配慮する。2年次からは、専門コースを1つ選択し、ゼミ担当教員の指導の下、各コースにおける「基礎演習」を基盤として、「演習」「専門実習 I・II」と段階的な学修を進めていき、4年次には、「卒業研究」に取り組む。特に、今回の学科再編にともなって、「コース専門科目」は自コースのみならず他コースからも履修することが可能となり、学生個々のニーズに対応した専門教育を展開できるようになる。

### 3. 卒業要件と学位の授与

卒業要件については、「一般教養科目」「外国語科目」「情報処理科目」は36単位以上、「専門科目」は54単位以上、「コース専門科目」は30単位以上、「卒業研究」は4単位で、合計124単位以上となっている。卒業研究は、各コースに所属するゼミ毎に指導を受け、提出期日までに提出されたものについて、コース毎での「卒論発表会」において教務委員会が定めた基準をクリアし、教授会で追認されたものについて単位が認定される。このように、124単位以上を取得し、4年以上在学した者に学士（スポーツ学）の学位を授与する。

## 卒業要件一覧

科目区分		必修	選択		計
教養科目	一般教養科目	8単位	14単位以上	—	36単位以上
	外国語科目	8単位	2単位以上		
	情報処理科目	2単位	2単位以上		
専門科目	講義・実習科目	33単位	14単位以上	—	84単位以上
	実技科目	—	7単位以上		
コース専門科目		10単位	10単位以上	他コースより 10 単位以上	
卒業研究		4単位	—		4単位
合計		65単位	59単位以上		124単位以上

### 4. 履修モデル

標準的な単位の履修モデルは次の通りである。このモデルは、段階的に学修を進められるように、一定の配慮に基づいている。(資料：履修モデル①～⑦)

#### キ 施設、設備等の整備計画

本学は琵琶湖国定公園の一角に立地し、豊かな自然に恵まれた中にキャンパスを有している。本学のすべての施設は、本学の個性・特色及び教育方針にあるとおり、「自然との共生」に配慮しつつ、これらの自然環境を積極的に教育研究に活用できるよう設計・施行されている。施設・設備はすでに整備済みであり、現時点では追加整備の予定はない。

##### 1. 校地、運動場の整備計画

本学の校地面積は 134,334.82 m<sup>2</sup>、うち運動用地は 79,482.00 m<sup>2</sup>を占める。陸上フィールドは日本陸上競技連盟 3 種公認陸上競技場、サッカーフィールドは Jリーグ規格に沿った人工芝グラウンド、平成 24 (2012) 年に完成したテニスコートは全豪オープンと同じハードコート仕様とするなど、本学の使命・目的である「スポーツに関わる実践的な高度職業人の育成」及び教育研究の基本方針である「豊かな教養と高度な専門性を有する人材の育成」を具現化するために整備してきている。また、野球だけでなく、ラグビーやソフトボール等の他種目でも活用できる多目的グラウンドになっているベースボールフィールドや、水球やダイビング、救助法の学習にも使える温水プール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン等の公式試合ができたり、柔道場やダンス・剣道場、トレーニングルームを有する 2 つのアリーナ（メインアリーナ、マルチアリーナ）などがある。

この他にも野外スポーツで活用できる野性の森は、自然林内に ASE 活動（社会性を育成する実際体験）等の野外教育の拠点となる設備が配置され、本学の特色ある教育の一つである「フレッシュマンキャンプ」や外部の各種競技団体等の研修等に活用されている。

##### 2. 校舎等設備の整備計画

本学の校舎敷地面積は 50,097.54 m<sup>2</sup>、校舎面積は 12268.03 m<sup>2</sup>である。主要施設としては 2 つの講義棟、研究室・実験室のある研究棟、ライブラリー、食堂や売店、学生ラウン

ジのあるクラブハウスなどがある。第1講義棟は大講義室1室、中講義室1室、講義室8室、小講義室9室、大学院学生研究室2室を有し、第2講義棟は大ホール1室、ホール2室を有する。また、キャンパス環境を充実させるために大教室で大ホールのイベント中継を可能にするサテライトシステムを導入している。

### 3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館であるライブラリーは、図書48,001冊、雑誌タイトル888(2,884冊)、AV資料1,511点を有している。閲覧室は145席あり、2階には視聴覚室及びパソコン教室、情報ラウンジがある。ライブラリーの平日の開館時間は9時から20時、長期期間中は9時から17時であるが、定期試験前の7月、12月、1月は学生の要望に基づいて試験期間中の土曜日も9時から17時まで開館している。

ライブラリーは学生の利用環境の改善のために、平成25(2013)年度に54.26㎡の増築を行った。

## ク 入学者選抜の概要

### 1. アドミッションポリシー

本学は、スポーツに興味・関心があり、基礎的な学力、運動能力、そして豊かな人間性を備え、自己の将来に向かって成長し、スポーツを通じて社会に貢献する意思を持つ人の入学を希望している。

さらに、入試種別に応じて「求める学生像」を以下の通りとする。

#### (1) AO入試

スポーツに関して優れた技能や経験を有し、更にその資質を向上させるため、論理的な問題解決に意欲的に取り組める人

#### (2) 推薦入試

スポーツの競技力向上やそれを支えるスポーツ領域に関心を持って努力するとともに、豊かな人間性を有し、将来的にスポーツ活動に意欲的に取り組める人

#### (3) 一般入試

幅広い教養を身に付け、広い視野でスポーツを追求し、学習成果を社会的場面で生かすことに関して意欲的に取り組める人

#### (4) 社会人入試

社会生活の中で身に付けた経験知を背景に、スポーツを包括的な立場から捉え、将来的にスポーツを通じた社会貢献に意欲的に取り組める人と制定し、学生募集要項やホームページ、オープンキャンパスなど可能な限り機会を捉えて説明している。

なお、本学では入学年度に満25歳に達している者で、社会人経験を有し、スポーツを学ぶことに強い意欲と関心を有する者を社会人と定義している。

### 2. 選抜方法

本学では上記アドミッションポリシーを募集要項やホームページに明示し、その周知に努め

多様な選抜方法を実施している。

### 3. 入試種別と選考方法

本学の特性を入学試験の選抜において発揮すべく、推薦入試と一般入試前期日程に実技試験を採り入れ、受験生にとっては異なる選抜方法で受験できるよう配慮する試験日自由選択制としている。

これら入試種別と選考方法を以下に示す。

平成 26 (2014) 年度までの入試種別と選考方法

入試の種別		選考方法
AO入試	オープンキャンパス参加型 [面談]	オープンキャンパスで教員との面談を出願条件とし、一次選考(書類)、二次選考(個人面接)で選考する。
	オープンキャンパス参加型 [スポーツクリニック]	オープンキャンパスでスポーツクリニック参加を出願条件とし、一次選考(書類)、二次選考(個人面接)で選考する。
	自己推薦型	エントリー条件を満たす者で、一次選考(書類)、二次選考(個人面接)で選考する。
特別推薦入試	指定校	推薦を依頼する指定高等学校長推薦の者で、「基礎教養テスト」「面接」により選考する。
	併設校	学園併設高等学校長推薦の者で、「基礎教養テスト」「面接」により選考する。
	スポーツ	原則として、全国大会等で優秀な成績を収めた者に対し、「書類審査」「面接」で選考する。
推薦入試	小論文型	「書類」「小論文」「面接」により選考する。
	実技型	「書類」「実技」「面接」により選考する。
一般入試 前期日程	A 日程	「英語」「国語」により選考する。
	B 日程	「英語」「実技」により選考する。
一般入試後期日程		「小論文」「面接」により選考する。
大学入試センター試験利用入試(前期・後期日程)		「英語」を必修とし、「国語」と「数学」のいずれかを選択とし、大学入試センター試験の成績により選考する。
その他	社会人	「書類」「面接」により選考する。
	私費外国人留学生	「書類」「面接」により選考する。
編入学試験		「書類」「面接」により選考する。

また、2015 年度における各入学試験の募集人数は以下のとおり。

AO入試	特別推薦入試			推薦入試		一般入試			大学入試センター試験 利用入試	
	併設校	指定校	スポーツ	実技型	小論文型	前期A日程	前期B日程	後期日程	前期日程	後期日程
40名	50名		45名	50名		65名		20名	5名	5名

ケ 資格取得を目的とする場合（例えば教員、管理栄養士、看護師、理学療法士等）

1. 本学で取得できる資格

本学にて所定の単位を取得することにより、卒業時取得できる教員免許状・資格は次のとおりである。

(1) 教員免許状

- ① 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- ② 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

(2) 資格

- ① 初級スポーツ指導員
- ② 中級スポーツ指導員
- ③ レクリエーションインストラクター

2. 本学で受験資格を得られる資格

本学にて所定の単位を取得することにより、資格取得のための受験資格が得られる資格は次のとおりである。

(1) 資格

- ① 健康運動指導士
- ② 健康運動実践指導者
- ③ A. D. I.（エアロビック・ダンスエクササイズ・インストラクター）
- ④ レクリエーションコーディネーター
- ⑤ アスレティックトレーナー
- ⑥ アシスタントマネジャー

コ 実習の具体的計画

教員免許取得の条件である教育実習及び介護等体験の実習については、本学教職課程専門委員会が中心となり行っている。

サ 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合は、その具体的計画

教育方針の重要な柱とし、3年次必修科目として10日間以上（80時間程度）を条件に実施しているインターンシップ実習は、社会のニーズに対応できる実践力のある人材の育成に向け、担当教員（ゼミ）と連携を図りながら、インターンシップ実習専門委員会が中心となって行っており、今後も継続して取り組んでいく。

- シ 昼夜開講制を実施する場合はその具体的計画  
実施しません。
- ス 編入学定員を設定する場合は、その具体的計画  
設定しません。
- セ 2つ以上の校地において教育を行う場合  
行いません。
- ソ 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する  
場合  
実施しません。
- タ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合  
実施しません。
- チ 通信教育を実施する場合  
実施しません。

## ツ 管理運営

### 1. 学長の役割

本学の学長は、本学における教育研究や管理運営に関する最高責任者であると同時に、学園の理事であり、学園の経営に関する責任をも有している。従って学長は、本学の教員採用をはじめとする人事計画や諸規程の制定・改廃、教育環境の改善、募集状況を踏まえた事業計画とその予算案など、本学の教育研究や管理運営に関する様々な学内要請事項について、対応するとともに、新たな企画立案・実施に際しては、理事会へ経営的な判断を仰ぐ仕組みになっている。

### 2. 教授会及び各委員会の役割

本学では、学長をリーダーとして副学長（学部長兼務）・両学科長（生涯スポーツ学科・競技スポーツ学科）及び事務組織との協力体制をとりつつ、大学全体の運営にあたっている。また、8月を除く毎週水曜日の午後を会議や委員会の開催日と位置づけ、全委員（専任教員）が出席できるよう授業の配置などを考慮している。

大学全体の管理運営における本学の意思決定機関は「評議会」であるが、本学の教育研究に関わる意思決定機関は「教授会」である。

平成21（2009）年度から、教授会は原則として毎月第4水曜日に定期的に開催している。教授会では学部長が議長を務め、全教授がメンバーとなって、入学試験の合否判定・学籍異動・教員人事に関わることなどについて審議を行っている。更に、この定例教授会以外にも、緊急

の審議を要する事項が発生した場合は臨時教授会を開催し、適宜対応している。

また、教授会で審議・決定された事項は、教授会に引き続いて開催している教員会議で報告・協議され、最終的に全学的に周知徹底されるシステムとなっている。

教授会のもとに委員会（教員資格審査等、学術、共同研究審査、施設・設備、広報・情報、自己点検評価、国際交流、セクシュアル・ハラスメント、教授、FD、教職課程、高大連携、インターンシップ実習、学生、入試、就職、図書、紀要編集、研究倫理、保健・安全管理の各委員会及びスポーツ開発・支援センター会議）が設置されており、各委員会規程に則って5人から14人の委員（2年任期、全専任教員が2つ以上の委員会に所属）で構成されている。委員会は、原則として月1回開催され、各委員会規程に定められている様々な課題について検討・協議し、教授会に上程して承認をうける手順となっている。また、常設ではないが、教員の人事案件（採用、昇格、任期付き教員資格審査等）については、その都度、適任教員を委員とした「教員資格審査等委員会」を設置し、適切に対応している。

また、学科やコースに関する案件を協議する目的で、学科会議、コース会議が随時開催されており、これらの組織が有機的に連携することによって、大学全体の教育研究活動の改善と充実・向上を図っている。

本学では、本学の使命・目的及び学習者の要求に対応して、各年度の「教育計画・方針」として、「教育計画の骨子」（10項目程度）を教授会で設定し、理事会の審議・了承を受けたうえで教育研究活動を展開している。

学生に対しては、教学に関連する事項については教務委員会が、学生生活に関連する事項については、学生委員会が中心となって対応し、更に1年次生はクラス担任制（18クラス、1クラス1教員・学生20人程度）を敷くことで、2年次生は各学科・各コース所属教員が、3・4年次生は各ゼミ教員がそれぞれ対応することで、またスポーツ大学の特性を活かし、各クラブ顧問がクラブ活動を通じて随時対応することで、学生個々に対するよりきめ細やかな教育指導ができるよう配慮している。

各種会議・委員会を定期的に行き、それぞれの担当課題・案件について十分な審議が行われている。また、課題・案件の内容によっては別途ワーキンググループやプロジェクトチームを編成し、更に充実した審議と作業の効率化を図っている。

従って、本学の教育研究組織は適切に整備されており、また十分に機能している。

#### テ 自己点検・評価

本学では、教職員12名で構成される自己点検評価委員会を設置して基本的に2年に1回、自己点検報告書を作成している。自己点検・評価報告書は関係機関に配布するとともにホームページで公表している。この自己点検・評価の結果を踏まえて教育・研究、業務の目標を明確にし、改善への取組を進めている。

なお、平成22（2010）年に日本高等教育評価機構によって「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」との判定を受けた。

#### ト 情報の公表

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動等の状況の情報公開について、本学では大学のホームページ、大学案内、履修の手引き等によって広く一般に周知を行っている。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること
  - 建学の理念・シンボルマーク <http://www.bss.ac.jp/ouridea.html>
  - 学則 [http://www.bss.ac.jp/dep\\_guide/gakusoku.html](http://www.bss.ac.jp/dep_guide/gakusoku.html)
  - 学長メッセージ・学長紹介 <http://www.bss.ac.jp/message.html> ほか
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること
  - 組織図 <http://www.bss.ac.jp/staff/soshikizu.html>
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
  - 教員構成 <http://www.bss.ac.jp/staff/kyouinkousei.html>
  - 教員紹介 [http://www.bss.ac.jp/dep\\_guide/index.html](http://www.bss.ac.jp/dep_guide/index.html)
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
  - 入試等関連 [http://www.bss.ac.jp/ex\\_info/index.html](http://www.bss.ac.jp/ex_info/index.html)
  - 学生数等一覧 <http://www.bss.ac.jp/date/index.html>
  - 就職進路 <http://www.bss.ac.jp/employment/index.html>
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
  - シラバス [http://www.bss.ac.jp/dep\\_guide/index.html](http://www.bss.ac.jp/dep_guide/index.html) 内の学部情報 シラバス (PDF)
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
  - 学則 [http://www.bss.ac.jp/dep\\_guide/gakusoku.html](http://www.bss.ac.jp/dep_guide/gakusoku.html)
  - 学部案内・履修体系 [http://www.bss.ac.jp/dep\\_guide/info.html](http://www.bss.ac.jp/dep_guide/info.html) ほか
- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
  - キャンパス・施設案内 [http://www.bss.ac.jp/map\\_acces/index.html](http://www.bss.ac.jp/map_acces/index.html)
  - クラブ情報 [http://www.bss.ac.jp/club\\_act/index.html](http://www.bss.ac.jp/club_act/index.html)
  - 図書館 <http://www.bss.ac.jp/library/index.html> ほか
- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
  - 学費等 [http://www.bss.ac.jp/c\\_life/jyugyouryou.html](http://www.bss.ac.jp/c_life/jyugyouryou.html)
- (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
  - 進路・就職 <http://www.bss.ac.jp/employment/index.html>
  - 学生生活 [http://www.bss.ac.jp/c\\_life/index.html](http://www.bss.ac.jp/c_life/index.html) ほか
- (10) その他
  - 公的研究費の管理・運営 <http://www.bss.ac.jp/info/index2.html>
  - 設置認可申請書・設置計画履行状況報告書 <http://www.bss.ac.jp/info/index.html>
  - 大学院情報 [http://www.bss.ac.jp/dep\\_guide/index.html](http://www.bss.ac.jp/dep_guide/index.html) 内

## ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、教育内容方法の改善を図るためにFD専門委員会が中心となり、教務委員会と連携を図り、「教員研修」、「学生による授業評価アンケート」、「教員相互の授業参観」など組織的な取組を行っている。

## ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び取組

就職委員会・就職課と教務委員会・教務課の連携により、社会的・職業的自立に関する指導体制が構築されている。初年度から授業内でのキャリア教育を実施し、その後のインターンシップ実習、各種志望別就職対策講座への流れを構築し、平成24(2012)年度99.2%、平成25(2013)年度99.1%と高い就職率を維持している。

1年次生と2年次生を対象として、年初のオリエンテーション時に就職サポートガイダンスを実施している。その内容は、本学の就職支援体制や卒業までの就職活動計画の立て方の説明、就職が内定した4年次生の就職活動体験談などで構成している。また、入学後、早期に将来の進路への意識化を図り、必要な時期に必要な情報提供を可能にするため、適時キャリア教育を行っている。

学内でのガイダンスとしては、主に3年次生対象に、自己分析や社会人マナー講座、履歴書・エントリーシートの記入方法、業界企業研究や面接対策、SPI・小論文対策等の講座を就職活動時期に合わせて開催している。また、学外での合同企業説明会開催や学内での個別・合同企業説明会を実施し、学生の企業理解を深めるための支援も行っている。更に、ゼミ単位での就職意識を高める目的で、3・4年次生を対象に、就職課が各ゼミを訪問し「就職サポートミニ講座」を実施している。

また、教員や公務員を目指す学生に対し、特別対策講座として「教員採用試験対策講座」「公務員採用試験対策講座」を開設している。

就職課における進路相談窓口である「就職支援相談コーナー」「就職資料室」の充実に力点をおき、職員および教員の連携を更に綿密に行なうことができる就職支援体制の強化に取り組んでいる。また、年間30回程度の教職キャリアアドバイザーによる相談窓口を開設し、教員を目指す学生への支援体制を強化した。さらに、学生のルーチンワークを考慮し、気軽に相談および情報発信できる場として、クラブハウス2階において週2日の出張相談コーナーを開設している。内、年間16回は就職キャリアアドバイザーが相談を担当した。

特に強化した点は、3・4年次生に対する個別支援である。具体的には、ゼミ担当教員と就職課員の連携による学生個々の就職活動状況の把握や、就職に不安を抱く学生に関する情報の共有である。就職に不安を持つ学生の早期発見方法としては、担当教員による日常的な学生ミーティングによる就職活動状況の察知と、学生の就職課来訪時における就職活動状況の聞き取り調査があり、いずれも個別に支援策を講じている。また教職員間で常に最新の情報を共有する

ため、就職課から各教員へ学生の就職内定状況を記載した資料を配布し、情報交換を行っている。情報共有により、担当教員から就職課に対して問題を抱えた学生に対する就職活動支援要請が速やかに行われており、学生の就職意識や意欲の向上に繋げている。

履修モデル①（野外スポーツコース:野外活動団体希望）

科目区分	1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	栄養と健康	2	コミュニケーションと身体表現	2				4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	産業と経済	2				4
	自然と文化	身近な自然科学	2	国際化と文化	2				4
	教育と情報	教育学概論	2	現代社会とジャーナリズム	2				4
	初年次教育	教養演習A 教養演習B 教養演習C	2 2 2						6
外国語科目	英語Ⅰ	4	英語Ⅱ	4	ドイツ語	2		10	
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシーⅠ	2				4	
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門Ⅰ(総論)	2	スポーツ学研究法	2	インターンシップ実習	2	48	
		スポーツ学入門Ⅱ(各論)	4	スポーツ指導論	2	スポーツと環境	2		
スポーツ生理学概論		2	スポーツ哲学概論	2	スポーツ統計学	2			
スポーツマネジメント概論		2	救急処置法	2	スポーツボランティア実習	1			
スポーツ社会学概論		2	水辺実習	1	衛生・公衆衛生学	2			
スポーツ心理学概論		2	レジャー・レクリエーション論	2					
水中運動法		2	スポーツ政策論	2					
体カトレーニング法		2	スポーツと安全管理	2					
身体構造と機能		2	障害者スポーツ概論	2					
フレッシュマンキャンプ		1							
雪上実習	1								
実技科目	バスケットボール	1	ソフトボール	1			7		
	バレーボール	1	レクリエーションスポーツ	1					
			スノースポーツ	1					
			マリンスポーツ	1					
			障害者スポーツ	1					
コース専門科目	専門コース内		野外スポーツ基礎演習	4	野外スポーツ演習 野外スポーツ専門実習Ⅰ 野外スポーツ専門実習Ⅱ キャンプカウンセリング キャンプマネジメント キャンプ指導法 野外スポーツ指導法 野外スポーツの理論と実践	4 1 1 2 2 1 2 2	野外スポーツ特別講義	2	20
	専門コース外				スポーツ産業論 スポーツ施設イベントマネジメン	2 2	こどもの遊びと運動 生涯スポーツと地域保健 コーチング理論ⅠⅡⅢ	2 2 2	10
卒業研究							卒業研究	4	4
単位数		44		40		30		12	126
キャリア関連科目					キャリア英語Ⅰ キャリア英語Ⅱ	2 2	健康運動指導士特別講座(1) 健康運動指導士特別講座(2) レクリエーション指導法	2 2 1	
	単位数		0			4		5	9

## 履修モデル②（地域スポーツコース：スポーツ健康関連企業希望）

科目区分		1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	現代社会と人間関係	2	人間の心理と行動	2					4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	地域福祉とボランティア	2					4
	自然と文化	身近な自然科学	2	陶芸と地域伝統文化	2					4
	教育と情報	教育学概論	2	現代社会とジャーナリズム	2					4
	初年次教育	教養演習A 教養演習B 教養演習C	2 2 2							
外国語科目	英語I	4	英語II	4	ドイツ語	2				10
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシーI	2						4
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門I(総論) スポーツ学入門II(各論) スポーツ生理学概論 スポーツマネジメント概論 スポーツ社会学概論 スポーツ心理学概論 水中運動法 体カトレーニング法 身体構造と機能 フレッシュマンキャンプ 雪上実習	2 4 2 2 2 2 2 2 2 1 1	スポーツ学研究法 スポーツ指導論 スポーツ哲学概論 救急処置法 水辺実習 衛生・公衆衛生学 スポーツと安全管理 健康教育・管理論 障害者スポーツ概論	2 2 2 2 1 2 2 2 2	インターンシップ実習 学校保健 武道論 舞踊論 スポーツボランティア実習	2 2 2 2 1			47
	実技科目	陸上競技 サッカー	1 1	ソフトボール 障害者スポーツ 体カづくり・健康運動 障害者スポーツ	1 1 1 1	スノースポーツ	1			7
コース専門科目	専門コース内			地域スポーツ基礎演習	4	地域スポーツ演習 地域スポーツ専門実習I 地域スポーツ専門実習II 地域社会とスポーツ 地域スポーツと地域保健 こどもの遊びと運動 障害者スポーツ指導法 中高齢者と生涯スポーツ	4 1 1 2 2 2 2 2			20
	専門コース外					キャンプカウンセリング キャンプマネジメント キャンプ指導法	2 2 2	スポーツ施設イベントマネジメント スポーツ産業論	2 2	10
卒業研究								卒業研究	4	4
単位数			44		39		34		8	125
キャリア関連科目						レクリエーション指導法	2	健康運動指導士特別講座(1) 健康運動指導士特別講座(2)	2 2	
単位数			0		0		2		4	6

### 履修モデル③（学校スポーツコース：中学校教諭希望）

科目区分		1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	栄養と健康	2	コミュニケーションと身体表現	2					4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	産業と経済	2					4
	自然と文化	身近な自然科学	2	国際化と文化	2					4
	教育と情報	教育学概論	2	現代社会とジャーナリズム	2					4
	初年次教育	教養演習A 教養演習B 教養演習C	2 2 2							
外国語科目	英語Ⅰ	4	英語Ⅱ	4	ドイツ語	2				10
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシーⅠ	2						4
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門Ⅰ(総論)	2	スポーツ学研究法	2	インターンシップ実習	2			47
		スポーツ学入門Ⅱ(各論)	4	スポーツ指導論	2	学校保健	2			
		スポーツ生理学概論	2	スポーツ哲学概論	2	武道論	2			
		スポーツマネジメント概論	2	救急処置法	2	舞踊論	2			
		スポーツ社会学概論	2	水辺実習	1					
		スポーツ心理学概論	2	衛生・公衆衛生学	2					
		水中運動法	2	運動学概論	2					
		体カトレーニング法	2	スポーツと安全管理	2					
		身体構造と機能	2	健康教育・管理論	2					
		フレッシュマンキャンプ	1							
	雪上実習	1								
	実技科目	バスケットボール	1	柔道	1					7
		バレーボール	1	障害者スポーツ	1					
		陸上競技	1	器械運動	1					
				テニス	1					
コース専門科目	専門コース内		学校スポーツ基礎演習	4	学校スポーツ演習	4			20	
	専門コース外				学校スポーツ専門実習Ⅰ 学校スポーツ専門実習Ⅱ 保健体育科教育課程論 学校スポーツ指導法Ⅰ 保健体育授業分析評価法 教材開発演習Ⅰ 教材開発演習Ⅱ	1 1 2 2 2 2 2				
					地域社会とスポーツ 運動処方と運動療法 実践スポーツ栄養学	2 2 2	バレーボールコーチング理論と実践 スポーツメンタルサポート論	2 2	10	
卒業研究						卒業研究	4		4	
単位数		45		39		32		8	124	
キャリア関連科目	教職入門	2	教育心理学	2	教師論	2	教職実践演習	2	7	
			教育課程論	2	教育制度論	2	教育実習指導	1		
			保健体育科教育法Ⅰ	2	生涯教育論	2	教育実習Ⅰ(実習期間：3週間以上)	4		
			道徳の指導法	2	保健体育科教育法Ⅱ	2				
			教育方法論	2	総合学習教材研究	2				
			生徒・進路指導論	2	特別活動論	2				
					学校カウンセリング	2				
単位数		2	12		14			35		

履修モデル④（トレーニング・健康コース：アスレチックトレーナー希望）

科目区分	1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	栄養と健康	2	コミュニケーションと身体表現	2				4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	産業と経済	2				4
	自然と文化	身近な自然科学	2	国際化と文化	2				4
	教育と情報			現代社会とジャーナリズム 教育学概論	2 2				4
	初年次教育	教養演習A 教養演習B 教養演習C	2 2 2						6
外国語科目	英語 I	4	英語 II	4	ドイツ語	2		10	
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシー I	2				4	
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門I(総論)	2	スポーツ学研究法	2	インターンシップ実習	2		47
		スポーツ学入門II(各論)	4	スポーツ指導論	2	スポーツと安全管理	2		
スポーツ生理学概論		2	スポーツ哲学概論	2	スポーツ生理学I	2			
スポーツマネジメント概論		2	救急処置法	2	スポーツバイオメカニクス	2			
スポーツ社会学概論		2	水辺実習	1					
スポーツ心理学概論		2	スポーツ医学概論	2					
水中運動法		2	スポーツ栄養学概論	2					
体力トレーニング法		2	スポーツ統計学	2					
身体構造と機能		2							
フレッシュマンキャンプ		1							
雷上実習	1								
テーピングマッサージ法	2								
実技科目	バスケットボール	1	柔道	1				7	
	バレーボール	1	剣道	1					
	陸上競技	1	体力づくり・健康体操 エアロビックエクササイズ	1 1					
コース専門科目	専門コース内		トレーニング・健康基礎演習	4	トレーニング・健康演習	4		20	
	専門コース外				身体開発専門実習 I 身体開発専門実習 II スポーツリハビリテーション 運動処方と運動療法 スポーツ生理学 II 身体開発システム論 スポーツコンディショニング論	1 1 2 2 2 2 2			
卒業研究						卒業研究	4	4	
単位数		45		39		32	8	124	
キャリア関連科目			アスレチックトレーナー特別講座(1)	2	アスレチックトレーナー実習 I アスレチックトレーナー実習 II	1 1	アスレチックトレーナー特別講座(2) アスレチックトレーナー実習 III 健康運動指導士特別講座(1) 健康運動指導士特別講座(2)	2 2 2 2	12
	単位数		0		2		2	8	

履修モデル⑤ (コーチングコース:高等学校教諭希望)

科目区分		1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	栄養と健康	2	コミュニケーションと身体表現	2					4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	高齢化と社会	2					4
	自然と文化	身近な自然科学	2	地球の歴史と琵琶湖	2					4
	教育と情報			情報発信と情報倫理	2					4
				教育学概論	2					
初年次教育	教養演習A	2								6
	教養演習B	2								
	教養演習C	2								
外国語科目	英語 I	4	英語 II	4	スペイン語	2				10
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシー I	2						6
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門I(総論)	2	スポーツ学研究法	2	インターンシップ実習	2			47
		スポーツ学入門II(各論)	4	スポーツ指導論	2	学校保健	2			
		スポーツ生理学概論	2	スポーツ哲学概論	2	武道論	2			
		スポーツマネジメント概論	2	救急処置法	2	スポーツバイオメカニクス	2			
		スポーツ社会学概論	2	水辺実習	1					
		スポーツ心理学概論	2	スポーツ医学概論	2					
		水中運動法	2	スポーツ栄養学概論	2					
		体カトレーニング法	2	体育・スポーツ史	2					
		身体構造と機能	2							
		フレッシュマンキャンプ	1							
	雪上実習	1								
	テーピングマッサージ法	2								
	実技科目	バスケットボール	1	サッカー	1					7
		バレーボール	1	障害者スポーツ	1					
		陸上競技	1	エアロビックダンス	1					
				スノースポーツ	1					
	コース専門科目	専門コース内		コーチング基礎演習	4	コーチング演習	4			20
					コーチング専門実習 I	1				
					コーチング専門実習 II	1				
					コーチング理論I	2				
					コーチング理論II	2				
					サッカーコーチング理論と実践	2				
					トップアスリート論	2				
					コーチング理論III	2				
	専門コース外				身体操作法	2	パフォーマンス分析	2	10	
					ゲーム分析法	2	スポーツメンタルサポート論	2		
					実践スポーツ栄養学	2				
卒業研究							卒業研究	4	4	
単位数		45	39	32	8	124				
キャリア関連科目	教職入門	2	教育心理学	2	教師論	2	教職実践演習	2	35	
			教育課程論	2	教育制度論	2	教育実習指導	1		
			保健体育科教育法I	2	生涯教育論	2	教育実習I(実習期間:3週間以上)	4		
			道徳の指導法	2	保健体育科教育法II	2				
			教育方法論	2	総合学習教材研究	2				
			生徒・進路指導論	2	特別活動論	2				
					学校カウンセリング	2				
単位数		2	12	14	7					

履修モデル⑥（スポーツビジネスコース：スポーツビジネス産業希望）

科目区分	1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	栄養と健康	2	コミュニケーションと身体表現	2				4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	産業と経済	2				4
	自然と文化	身近な自然科学	2	国際化と文化	2				4
	教育と情報	教育学概論	2	現代社会とジャーナリズム	2				4
	初年次教育	教養演習A 教養演習B 教養演習C	2 2 2						6
外国語科目	英語Ⅰ	4	英語Ⅱ	4	ドイツ語	2		10	
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシーⅠ	2				4	
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門Ⅰ(総論)	2	スポーツ学研究法	2	インターンシップ実習	2	47	
		スポーツ学入門Ⅱ(各論)	4	スポーツ指導論	2	スポーツ政策論	2		
		スポーツ生理学概論	2	スポーツ哲学概論	2	海外研修実習	1		
		スポーツマネジメント概論	2	救急処置法	2	スポーツボランティア実習	1		
		スポーツ社会学概論	2	水辺実習	1				
		スポーツ心理学概論	2	体育・スポーツ史	2				
		水中運動法	2	障害者スポーツ概論	2				
		体力トレーニング法	2	スポーツ法学	2				
		身体構造と機能	2	レジャーレクリエーション論	2				
		フレッシュマンキャンプ	1						
	雪上実習	1							
	実技科目	バスケットボール	1	剣道	1		ソフトボール	1	7
		バレーボール	1	スノースポーツ	1				
		陸上競技	1	マリンスポーツ	1				
コース専門科目	専門コース内		スポーツビジネス基礎演習	4	スポーツビジネス演習 スポーツビジネス専門実習Ⅰ スポーツビジネス専門実習Ⅱ スポーツマーケティング スポーツ・メディア論 スポーツ施設イベントマネジメント スポーツ産業論 スポーツスポンサーシップ	4 1 1 2 2 2 2 2	スポーツマネジメント特別講座	2	20
	専門コース外				地域スポーツの理論と実際 中高年者と生涯スポーツ 実践スポーツ栄養学 野外スポーツの理論と実践	2 2 2 2	スポーツメンタルサポート論	2	10
卒業研究						卒業研究	4	4	
単位数		45		38		30	9	122	
キャリア関連科目					キャリア英語Ⅰ キャリア英語Ⅱ	2 2	健康運動指導士特別講座(1) 健康運動指導士特別講座(2) レクリエーション指導法	2 2 2	
	単位数		0	0		4	6	10	

## 履修モデル⑦（スポーツ情報戦略コース：大学院進学希望）

科目区分		1年	単位	2年	単位	3年	単位	4年	単位	単位数
一般教養科目	こころとからだ	現代社会と人間関係	2	人間の行動と心理	2					4
	生活と社会	法と生活(日本国憲法を含む)	2	地域福祉とボランティア	2					4
	自然と文化	地球の歴史と琵琶湖	2	国際化と文化	2					4
	教育と情報	情報と統計	2	情報発信と情報倫理	2					4
	初年次教育	教養演習A 教養演習B 教養演習C	2 2 2							
外国語科目	英語 I	4	英語 II	4	韓国語	2				10
情報処理科目	情報処理論	2	コンピュータリテラシー I	2						4
専門科目	講義・実習科目	スポーツ学入門Ⅰ(総論)	2	スポーツ学研究法	2	インターンシップ実習	2			47
		スポーツ学入門Ⅱ(各論)	4	スポーツ指導論	2	スポーツ政策論	2			
		スポーツ生理学概論	2	スポーツ哲学概論	2	スポーツ法学	2			
		スポーツマネジメント概論	2	救急処置法	2					
		スポーツ社会学概論	2	水辺実習	1					
		スポーツ心理学概論	2	スポーツ統計学	2					
		水中運動法	2	運動学概論	2					
		体カトレーニング法	2	体力測定と評価	2					
		身体構造と機能	2	スポーツバイオメカニクス	2					
		フレッシュマンキャンプ	1	テーピングマッサージ論	2					
	雪上実習	1								
	実技科目	器械運動	1	柔道	1					7
		バスケットボール	1	障害者スポーツ	1					
		陸上競技	1	バレーボール サッカー	1 1					
	コース専門科目	専門コース内		スポーツ情報戦略基礎演習	4	スポーツ情報戦略演習	4			20
					スポーツ情報戦略専門実習Ⅰ	1				
					スポーツ情報戦略専門実習Ⅱ	1				
					身体操作法	2				
					パフォーマンス分析	2				
					スポーツメンタルサポート論	2				
					スポーツ指導支援	2				
					ゲーム分析法	2				
	専門コース外				実践スポーツ栄養学	2	学校スポーツ指導法	2		10
					スポーツコンディショニング論	2	障害者スポーツ指導法	2		
					サッカーコーチング理論と実践	2				
卒業研究							卒業研究	4		4
単位数			45		41		30	8		124
キャリア関連科目					キャリア英語Ⅰ	2	健康運動指導士特別講座(1)	2		10
					キャリア英語Ⅱ	2	健康運動指導士特別講座(2)	2		
							レクリエーション指導法	2		
単位数			0		0		4	6		10